

ア ジ ア 日 誌

9月26日 - 10月17日

東 ア ジ ア

中国, 台湾, 南北朝鮮, モンゴル, チベット, 香港, 日本

9月28日

◇北朝鮮・ブルガリア両国の科学アカデミー, 平壤で5カ年の科学協力協定に調印。

9月29日

◇中国の国慶節に参加するソ中友好協会代表団, ネパール国王夫妻北京に到着。

9月30日

◇毛沢東中共主席, ネパール国王と会見。

10月2日

◇韓国政府, 政府組織法改正法律を公布。

◇マラヤ副首相, アブドル・ラザック氏夫妻, 日本政府の賓客として来日。

10月4日

◇セイロン・北朝鮮友好協会コロムボに設立さる。

10月5日

◇中国, 全国人民代表大会常務委員会は, 中国・ガーナ友好条約を討議, 批准した。

◇劉少奇中国国家主席とマヘンドラ・ネパール国王は, 北京で中国・ネパール国境条約に調印。

◇日米関税交渉ジュネーブで始まる。

◇ビルマ賠償再検討のための日本・ビルマ両国間の交渉開始。

◇カンボジア元首, シアスーク殿下来日(～8日)。

10月6日

◇中ソ科学技術協力委第11回会議の議定書, 中ソ両国科学アカデミーの

協力実施計画, 北京で調印さる。

10月7日

◇毛沢東中国共産党主席は, 訪中の日中友好協会代表団と会見, 池田首相は日本人民のよい友人ではないと非難。

◇北ヴェトナム国会常任委員会, 北ヴェトナム・モンゴル友好協力条約を批准。

10月8日

◇インドネシアのハエルール・サレ一建設開発相来日(～16日)。

10月9日

◇中国とラオス中立政府, 領事交換で合意。

◇ビルマ国防軍参謀総長ネ・ウィン将軍, 中国・ビルマ国境議定書の調印式に出席のため中国訪問。

10月10日

◇韓国軍政権, ソウル大学文理科大学学生新聞に対し「学園に自由がない」という記事をのせた理由で廃刊命令。

◇米海兵隊司令官シャープ大將訪韓, 尹大統領, 朴議長, 宋首相を訪問。

◇八幡製鉄など高炉8社, 中国原料炭10万トンを試験的に輸入する方針決める。

10月11日

◇中国・インドネシア政府間の経済技術協力協定, 北京で調印さる。

◇ウ・ヌー・ビルマ首相, 中国との国境議定書に調印。

◇野坂日本共産党中央委員会議長, ソ連共産党第22回大会出席のため, モスクワへ出発。

10月12日

◇ウ・トン・シェン駐日大使の申し入れで, 日・ビルマ賠償再検討交渉の非公式会談開く。

10月13日

◇米第8軍と韓国軍将官の特別合同軍事会議ソウルで開く。

◇ビルマ賠償, 東京交渉打ち切り。

10月14日

◇韓国国家再建最高会議, 元閣僚ら8人の釈放を発表。

◇金日成北朝鮮労働党中央委員会委員長を団長とする党代表団, ソ連共産党第22回大会に出席のためモスクワ訪問。

◇日本政府, フィリピンのカガヤン鉄道に580万ドルの借款供与。

10月15日

◇中国とネパール両国政府, 中国は大國主義的な態度でネパールを扱わないこと, および工業面における協力などに関する共同声明を発表。

◇中国・ネパール両国はチベット・カトマンズ自動車道路建設に関する協定を北京で締結。

◇周恩来首相を団長とする中国共産党代表は, ソ連共産党第22回大会に出席のため北京を出発。

10月16日

◇中国を訪問した英国のモンゴメリ元師, 「中国は3年以内に核兵器をもつだろう」と述べる。

10月17日

◇日本政府, シリアを承認。

◇日本政府, パキスタンとの航空協定に署名。

◇日本政府はインド政府との農業面での技術協力の1つとして, インド国内3カ所にモデル農場をつくることに決定。

◇バージニア州選出米民主党下院議員, 日本製絹布の輸入を制限するようホワイトハウス当局者に要請。

東南アジア

フィリピン, タイ, 南北ヴェトナム, ラオス, カンボジア, マ

ラヤ、シンガポール、インドネシア、北ボルネオ、サラワク

9月26日

◆国連総会でオランダ外相、西イリアンの国連監督下での自決を提案。

9月27日

◆オーストラリア政府、コロombo計画に基づき、南ヴェトナムの製材所に1万2000ポンドの電気機械を供与。

9月29日

◆タイのチャルサチャン内相、雨季あけの戦闘激化にそなえ、ラオス国境防衛措置を強化したと述べる。

9月30日

◆パキスタンとフィリピン、相互の貿易促進を目的とする協定に調印。
◆マラヤ、シンガポール両国合邦計画起草にあたる8人委員会任命される。

10月1日

◆インドネシアの各政党と団体、西イリアンに対するオランダの「国際化」「自決」政策に反対し、ただちに西イリアンに関する権力を、インドネシアに引き渡すよう要求する声明を発表。

10月2日

◆米政府はゴ大統領の声明に同意し南ヴェトナム軍の防衛能力増強のための緊急措置を推進すると発表。
◆ラオス3派のナモン会談で、3殿下が次期首相を選ぶため6日からビエンチャン北方のヒンホップで会談することに意見一致。
◆マラヤ副首相アブドル・ラザック氏夫妻、日本政府の賓客として訪日。
◆英国の経済学者、コーリン・クラーク・オックスフォード大学教授、西太平洋共同市場(オーストラリア、マラヤ、タイ、フィリピン、日本を含む)の結成を提唱。

10月3日

◆フィリピン米海軍司令官デーリット・J・ウェルシュ海軍少将、ラオスの政治交渉が失敗したら、米国は軍事行動を行なう用意があると語る。
◆フィリピン外務省、キューバ外務省に対し、マニラ駐在ソレル臨時大

使を共産主義破壊活動の理由で、72時間以内に本国へ召喚するよう要求。

◆ラオス中立党、第1回大会を開き議長にプーマ殿下を選出。

10月4日

◆ハノイ4日発新華社電は、「南ヴェトナムでは賃上げと民主的自由を要求するストが全国に広がっている」と伝える。

10月6日

◆ラオス3派首脳会談始まる。

10月7日

◆北ヴェトナム国会常任委員会、北ヴェトナム・モンゴル友好協力条約に批准。

◆ヒンホップ会談で臨時連合政府の16人の閣僚割りふりが決定。

◆カンボジア代表团、中国の水利事業研究のため、プノンペンを出発。

10月8日

◆ラオス3殿下会談、首相にプーマ殿下で意見が一致。

10月9日

◆ラオス3派会談、懸案事項の検討で、合意に到達せず。

◆中国とラオス中立政府、領事交換で合意。

◆米國務省、ラオスの首班にプーマ殿下の選出されたことを歓迎。

◆シアヌーク・カンボジア元首、ケネディ米大統領の公式招待を拒否。

◆オランダ、国連総会に西イリアンの早期独立の可能性を調査するための国連調査団の設置に関する決議案を提出。インドネシア外相はこれを拒否。

10月11日

◆中国・インドネシア政府間の経済技術協力協定、北京で調印さる。

10月12日

◆ソ党第22回大会出席の途次北京へ立ち寄ったホー・チミン・北ヴェトナム大統領は、毛沢東ら中国首脳と会談。

◆サリット・タイ首相、プーマ首班に反対と語る。

10月13日

◆世界銀行、フィリピンのルソン島水力発電所建設のため3400万ドル相

当の借款供与。

◆インドネシア議会、西イリアンを国際的機関の支配下におこうとするオランダ側の提案を拒否。

10月14日

◆日本政府、フィリピンのカガヤン鉄道に580万ドルの借款供与。

◆メルボルン放送によれば、南ヴェトナム国会は、共産ゲリラ対策の1つとして婦人部隊を設置する法案を可決。

10月15日

◆テラー米大統領軍事顧問、南ヴェトナム派兵の必要調査のため出発。

10月16日

◆ラーマン・マラヤ首相、シンガポールをSEATOの基地として英国に使用させることは許さないと述べる。

10月17日

◆北ヴェトナム政府は、英・ソ両国に米国の南ヴェトナムへの軍事介入を阻止するよう要請。

南アジア

インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、ネパール、ブータン

9月30日

◆ニューデリーの経済企画専門家会議、経済企画専門家養成のためバンコックに「アジア経済企画協会」の設立を決定。

◆パキスタンとフィリピン、相互の貿易促進を目的とする協定に調印。

10月1日

◆インドの宗教、地域各グループ間の統一をはかるための各界指導者会議、自治体内のカースト制の除去および言語、宗教問題に対する政治的扇動の禁止等をうたった宣言を採択。

10月4日

◆セイロン・北朝鮮友好協会コロomboで設立さる。

10月5日

◆ネパール・中国国境条約に調印。

10月6日

◆ソ連・インド間の原子力平和利用に関する相互援助協定、ウイーンで調印さる。

10月8日

◆インド・ウッタール・プラデシュ州のメイルート、チャンダウシで、ヒンズー教徒と回教徒の衝突事件が発生し、24人が死亡。

10月9日

◆ビルマ国防軍参謀総長、ネ・ウイン將軍、中国・ビルマ国境議定書の調印式に出席のため中国訪問。

10月11日

インドのウッタール・プラデシュ州のチャランシン内相、ヒンズー・回教徒衝突で32名死亡、100名負傷、1700名逮捕と発表。

◆ウ・ヌー・ビルマ首相、周恩来首相の招きで中国訪問、国境議定書に調印。

10月12日

◆パキスタン当局は、パキスタン領自由カシミール政府大統領にK・H・クルシド現大統領が再選されたことを公表。

◆ザワッキー・ポーランド国家会議議長、インド訪問（～14日）。

◆セイロン政府、非常事態を10月17日から、さらに1カ月延長。

◆日・ビルマ賠償再検討交渉の非公式会談開く。

10月13日

◆世銀、インド開発5カ年計画の鉄道建設援助のため、インドに5000万ドル、ルソン島の水力発電所建設費に3400万ドル借款を供与。

◆中国・ビルマ国境議定書、北京で調印。

◆ビルマ下院（地域代表会議）代表団、北朝鮮最高人民会議の招きで平壤へ向かう。

◆ビルマ賠償再検討に関する交渉中断し、ビルマ側は交渉場所をラングーンに移すことを提案。

10月15日

◆中国とネパール両国政府は、中国は大国主義的態度でネパールを扱わないこと、および工業面における協力などに関する共同声明を発表。

◆タキン・ティン蔵相ら、ビルマ賠償交渉代表団帰国。

10月16日

◆中国・ネパール両国はチベット・カトマンズ自動車道路建設に関する協定を北京で締結。

◆ウ・ヌー・ビルマ首相は日本との経済断交を考えているとラングーンの経済通信社が報道。

西南アジア

アフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、アラブ連合、バーレン、クウェート、カタール

9月26日

◆イタリアはアラブ連合の石油開発に2億ドルの借款を供与。

9月28日

◆アラブ連合シリアで陸軍が政権を握る。ナセル大統領、反乱軍と妥協せぬと放送。

9月29日

◆シリア、アラブ連合を脱退し新政権を樹立、首相クズバリ氏。

ヨルダン、トルコ新政権を承認。ナセル大統領はシリア攻撃中止を命令。

9月30日

◆シリア新政府は国連に同国の再加盟を申請。またエジプトに対し友好申し入れを行なう。

10月1日

◆シリア革命軍司令部、ザハレディン中將を新シリア共和国軍最高司令官に任命。

◆アラブ連合はシリア新政権を承認したヨルダン・トルコ両国と断交。

◆国府、シリア新政権を承認。米国も要請あれば承認すると発表。

10月3日

◆アラブ連合、クウェートと国交樹立、相互に大使館をおくことで合意。

10月5日

◆アラブ連合のナセル大統領、シリアのアラブ連合離脱を承認し、全国

向け放送で「シリアの国連加盟に反対せず、政治的にも外交的にもシリア封鎖は行なわない」と述べる。

◆アラブ連合政府、モロッコ、ノルウェー、中国、アルゼンチン各国駐在大使をシリア政権に同情を示したという理由で解任。

◆パーレビ・イラン国王は、勅令で1億3300万ドルと評価される個人資産を国民に解放すると発表。

10月7日

◆ソ連、シリア新政府を承認。

10月8日

◆シリア政府、経済財政改革委員会を設置、委員長はイザト・トラブル元シリア中央銀行総裁。

◆ダマスカス放送によれば、シリア革命軍司令部スポークスマンは、ダマスカス市議会代表に「政党活動は許さない」と述べる。

10月9日

◆シリア政府、経済・財政改革委員会を編成。

10月10日

◆米国、シリアを承認。

◆カセム・イラク首相は、「イラク空軍は、北部イラクのバーラン地区の反徒に対する作戦を完了した」と言明。

10月11日

◆シリア、ヨルダンとの国境を再開。
◆英系イラク石油会社（IPC）とイラク政府の石油利権改定交渉決裂。

10月12日

◆アラブ連合、クウェートに派遣されている自国軍隊引き揚げを決定。

◆イラク政府は、英系イラク石油会社との石油利権改定交渉決裂に伴い、国民の利益擁護のため「法的措置」をとると声明。

10月13日

◆国連総会、シリアの加盟を承認。

10月15日

◆トルコ総選挙で、共和人民党、正義党はともに上下院で過半数を獲得できず。

10月16日

◆ソ連・アフガニスタン両国は、モスクワで経済技術協力協定に調印。

- ◆第3回アラブ石油会議、アレキサンドリアで開く。
- ◆イラン政府、対日輸入を、暫定的に対日輸出にみあう額に抑えることを決定。
- ◆トルコ選挙管理当局は総選挙の中間開票結果の公表を突然に中止。

アフリカ

9月26日

- ◆KANU(ケニア・アフリカ民族同盟)の副総裁の刺傷事件以来、KANUとKADU(ケニア・アフリカ民主同盟)との間に乱闘事件が発生。
- ◆ポルトガル領のアフリカ学生会議(22~26日)、ポ領アフリカ学生総連合の設立を正式に決めて閉会。

9月27日

- ◆リベリアで共産政権を樹立しようとした陰謀が発覚。
- ◆ユーゴとモロッコ両国、経済、技術協力協定に調印。

9月29日

- ◆東および中央アフリカの指導者4氏がタンガニーカのダルエスサラームで東・中アフリカの連邦構想について会談。

9月30日

- ◆エンクルマ・ガーナ大統領は、内閣改造を発表(大統領事務相、内閣事務相が廃止された)。

10月1日

- ◆ビゼルトの仏軍部隊は、チュニジア軍との戦闘突発前の原位置に復帰しはじめる。
- ◆バマコ電によれば、ケイタ・マリ大統領は、マリの第1次5カ年計画は正式に開始されたと述べる。

10月2日

- ◆アルジェリアで反ドゴール派のOの指令で30分間のゼネストが行く。市内の全商店がこれに参加。西太平洋、マラヤ、タイ、進駐の仏軍、撤退を含む)の結成を

10月3日

- ◆フィリピン米海軍軍艦がきびぎまつてト・J・ウェルシュ海軍 KANU 代の政治交渉が失敗した、に決裂。事行動を行なう用意が
- ◆フィリピン外務省、省に対し、マニラ駐在に締結。

10月6日

- ◆ソフィアで、ブルガリア・ガーナ両国の通商支払い協定締結さる。

10月9日

- ◆英連邦12カ国は国連総会にタンガニーカを独立国として国連加盟を承認するよう要請した決議案を提出。

10月10日

- ◆デスランデス・アンゴラ総督、ラジオを通じて「アンゴラの反乱は終わった」と声明。

10月11日

- ◆国連総会本会議、ロウ南ア外相の人種差別擁護演説に対する懲罰動議を採択。

10月12日

- ◆アルジェリア臨時政府、ヤジド情報相、アルジェリアの将来について対仏交渉再開を呼びかく。

10月13日

- ◆ルアンダ・ウルンジのルワガソレ・ウルンジ地区首相暗殺さる。
- ◆ガーナ国連代表、南アの人種差別を非難し、同国を国連から締め出すべきだとの総会決議案を作成。

10月14日

- ◆コンゴの国連軍とカタンガ軍、最終的停戦協定に調印。
- ◆タンガニーカ的首都ダルエスサラームで PAFMECA(東、中央アフリカ解放運動)会議開かる(～17日)。

10月16日

- ◆ガーナ、チェコと期限5カ年の貿易協定、支払協定、経済協力協定に調印。

10月17日

- ◆パリ数カ所で夜間外出禁止令に反対するアルジェリア回教徒デモ隊、警官と衝突、2人死亡。

そ の 他

9月25日

- ◆ガット理事会ジュネーブで開かる(～10月3日)。

9月26日

- ◆国連安保理、モリタニア、モンゴル、シエラレオネの加盟を討議し、満場一致でシエラレオネの加盟を可決。

- ◆ECAF 主催の第1回アジア経済計画会議開く。

10月1日

- ◆SEATO 軍事顧問会議(～6日)、バンコックで開かる。議題、最近のラオス問題と南ヴェトナムの共産ゲリラ活動について。

10月2日

- ◆ドルチコス・キューバ大統領、周恩来首相と会談、中共・キューバ共同コミュニケに調印。
- ◆中国訪問中のドルチコス・キューバ大統領と劉少奇国家主席は、両国の強い友好関係を確認した共同コミュニケに調印。

10月3日

- ◆IAEA(国際原子力機関)総会、ウィーンで開かる(1日～)。事務総長後任問題にスウェーデン代表を選出。

10月4日

- ◆エクアドル労働総同盟指令の新税法に抗議するストのため、キト全市はほとんどマヒ状態となる。

10月6日

- ◆ウルグアイ政府、同国駐在ソ連外交官の活動を制限する法令を施行。

10月10日

- ◆キューバ革命評議会のミロ・カルドナ議長、同評議会を再編して地下組織その他のグループも加えると発表。

10月11日

- ◆リエラス・コロンビア大統領、戒厳令を布告。

10月15日

- ◆米ソ両国、次期国連事務総長にビルマのウ・タント代表を推すことで一致。

10月16日

- ◆アジア生産性機構会議、西パキスタンのラホールで開かる。
- ◆ソ連紙、新極東軍管区司令官にクレイゼル大将の就任を報道。

10月17日

- ◆ソ連共産党第22回大会開かる(～31日)。
- ◆フルシチョフ・ソ連首相、第22回大会報告演説でアルバニア勤労者を非難。
- ◆FAO の第1回アジア極東地域農業経営専門家会議、京都で開かる(～25日)。